

きのこ新聞

号外

10/30
【土曜日】

国立科学博物館
筑波実験植物園
〒300-0005
つくば市天久保4-1-1
電話 (029) 851-5159
www.tbg.kahaku.go.jp
©筑波実験植物園

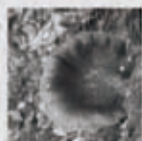
- きょうの紙面
- 1 毒きのこ非常事態**
茨城県内では毒きのこによる中毒被害が多発。その多くがウラボシやテイシメジと間違えてクサウラボシタケを食べたことによるものだ。
 - 2 よく間違われる毒きのこ**
ほとんどの中毒は数種の毒きのこによるもの。代表的な種を紹介する。
 - 3 毒きのこにまつわる迷信集**
きのこ展開催中 (下部広告)

毒きのこ中毒、県内で多発

日本では起って
いるきのこ中毒の
ほとんどが、クサ
ウラボシタケ・ニ
ガクリタケ・ツキ
ヨタケの3種によ
るものだ。良く似
た食用きのこを間
違って大量に食べ
ると死の危険も。



ニガクリタケは食用のクサウラボシに似るが、後者は決して黄緑色を帯びず苦い味もない。

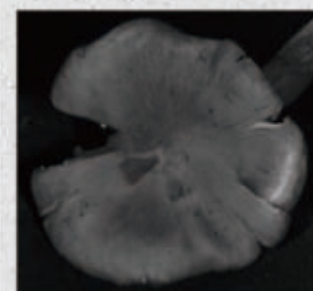


ツキヨタケはシイタケやムキタケに似る。根元に黒いしみの場合はツキヨタケの可能性が高いので、美味しそうに見えても絶対に食べてはいけない。

- 毒きのこにまつわる迷信
- 次に挙げるのは全くの迷信であるので、決して信じてはいけない。
- 一、縦に割ければ食用
 - 二、色が地味なら食用
 - 三、塩漬・加熱すれば食用
 - 四、虫食いがあれば食用
 - 五、良い匂いなら食用
 - 六、茄子と調理すれば食用

間違われやすい毒きのこ

ウラボシやテイシメジは食用だが、毒きのこのクサウラボシタケやイッポンシメジに良く似ている。茨城県内では食用のものを「一本しめじ」と呼ぶため、さらにややこしい。これらは一緒に生えることも多く、熟練したきのこ採り名人でも間違えることから「名人泣かせ」の別名もある。典型的なクサウラボシタケには、下の写真で示したような模様があるが、個体変異も大きいので、少しでも怪しい場合は、絶対に食べてはいけない。



食用きのこのウラボシホテイシメジ(傘上部より撮影)。表面の「かすり模様」と「指で押したような跡」が特徴(写真提供=Dr. Mushrooms)

食用きのここと間違え病院行き 見分け方の迷信を過信か?

毒キノコで食中毒 県内で今年初

県保健福祉部に7日までに入った連絡によると、大子町内の女性(55)が毒キノコのクサウラボシタケを誤って食べ、食中毒になった。キノコによる食中毒は今年初めて。

県食の安全対策室によると、女性は5日、家族が自宅近くの山林で採取したキノコをみそ汁に調理し食べたところ、約2時間後、吐き気、嘔吐などの症状を訴えた。キノコを県林業技術センターで調べた結果、クサウラボシタケと確認された。

女性は医療機関に入院したが、7日に退院し快方に向かっている。秋のキノコ狩りシーズンを迎え、同室は「判断に迷ったら、専門家に相談してほしい」と注意を促している。

記者紹介 保坂 健太郎

沖縄、アメリカで菌類を研究し、現在は国立科学博物館の菌類(きのこ)研究員。全ての大陸できのこの調査をするのが夢だが残すは南極のみなので、次なるターゲットは深海が宇宙かと妄想を膨らませている。

きのこ展

五感でなっとくきのこワールド

2010
10/30日-11/7日 全県巡回中

国立科学博物館筑波実験植物園

イベント情報

お楽しみ品は下記です

お楽しみ品は下記です